4.成人市中肺炎の重症度別患者数等

成人市中肺炎の患者さんの人数を重症度別に集計しました。重症度は、成人市中肺炎診療ガイドライン(日本呼吸器学会)による重症度分類システム(A-DROP)を用いて分類しました。

定義

◇集計期間に退院した症例

◇この集計での成人とは 18 歳以上を指します

◇市中肺炎とは、普段の生活の中で罹患した肺炎を指します

対象外：入院後発症の肺炎、誤嚥性肺炎、インフルエンザ肺炎、ウイルス肺炎等

◇入院の契機となった傷病名および最も医療資源を投入した傷病名が「肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(DPC コード:040080 相当)」に該当し、ICD-10 コードが J13～J18 で始まる肺炎

重症度	患者数	平均在院日数	平均年齢
軽症	―	―	―
中等症	44	13.02	73.05
重症	15	21.80	81.40
超重症	―	―	―

解　説

当院の肺炎の重症度は中等～重症の症例が多く入院しています。患者さんの多くは高齢であること、重症化してから救急搬送される患者さんが大半を占め、重症度の高い症例が多い傾向になっています。また、気管支喘息や COPD（慢性閉塞性肺疾患）などの呼吸器疾患を合併している場合も重症化の要因として考えられます。

平均在院日数は重症度だけではなく、患者の既往症や生活環境等の背後要因によって異なってきます。そのため、当院では入院早期から社会福祉士が介入し、早期退院に向けた取り組みを行っています。